

わたしのおすすめ公共建築 ⑱

建築名称	松永記念館
提案団体	小田原市建築課
建築年度	1959年(昭和34年)
おすすめ箇所	記念館では、松永安左エ門(耳庵)ゆかりの品々が常設展示されています。また、記念館のほか敷地内に建築されている「老櫓荘」は、茶室・広間・寄付など各部屋の意匠に特徴を持つ、見どころの多い近代数寄屋建築です。
コメント	松永記念館は、戦前・戦後と通じて「電力王」と呼ばれた実業家であり、数寄茶人としても高名であった松永安左エ門(耳庵)が、昭和21年に小田原へ居住してから収集した古美術品を一般公開するために、昭和34年に財団法人を創立して自宅の敷地内に建設した施設です。昭和54年に財団が解散し、その敷地と建物が小田原市に寄付されました。 市では、昭和55年10月に小田原市郷土文化館の分館として設置し、特別展や企画展を本館・別館展示室で開催しています。また、昭和61年に移築した野崎廣太(幻庵)の茶室「葉雨庵」や、補修保存工事後に平成13年から公開している安左エ門の居宅「老櫓荘」など、国登録有形文化財となっている貴重な建物も見学及び利用できます。 また、庭園は平成19年2月「日本の歴史公園100選」に選ばれ、四季を通じ様々な花を觀賞できます。



右の建物が松永記念館本館、左が収蔵庫

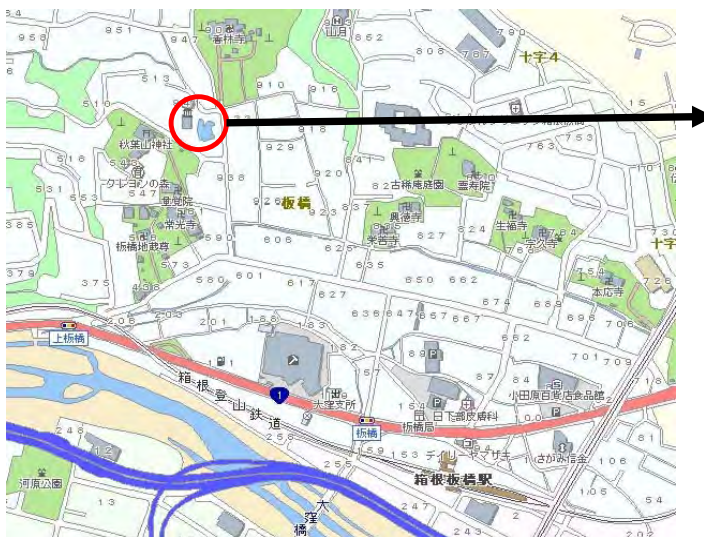


松永安左エ門(耳庵)が晩年を過ごした「老櫓荘」(国登録有形文化財)



平成19年2月「日本の歴史公園100選」に選ばれた庭園

案内地図



外観写真



箱根登山線「箱根板橋駅」から徒歩10分
または、小田原駅より箱根行きバス「上板橋」下車、徒歩6分

住所

小田原市板橋941-1

問題

松永安左エ門が晩年を過ごした居宅は「老櫨荘」ですが、その名前の由来は为什么呢？

- ① 建築材料に櫨がふんだんに使われているから。
- ② 建物の中から櫨が生えてきたから。
- ③ 敷地内に櫨の大木があるから。

建築名称と、答え、住所、氏名を記入して、下記のあて先まで官製はがきにてお送りください。
抽選で20名様に公共建築関連グッズをお送りいたします(平成24年11月30日までの消印有効)。
※当選の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。

あて先

〒231-8588 横浜市中区日本大通1
神奈川県庁 県土整備局営繕計画課施設整備グループ 『わたしのおすすめ公共建築』係